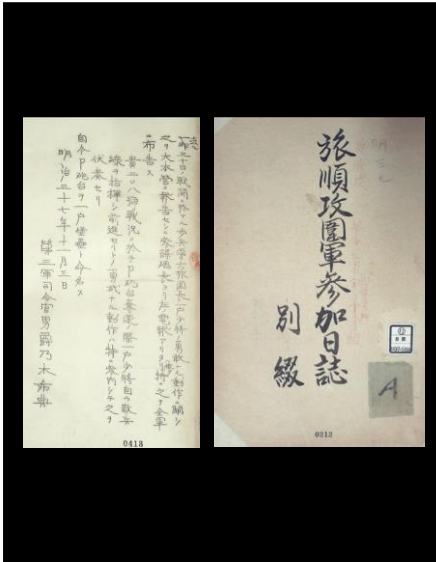


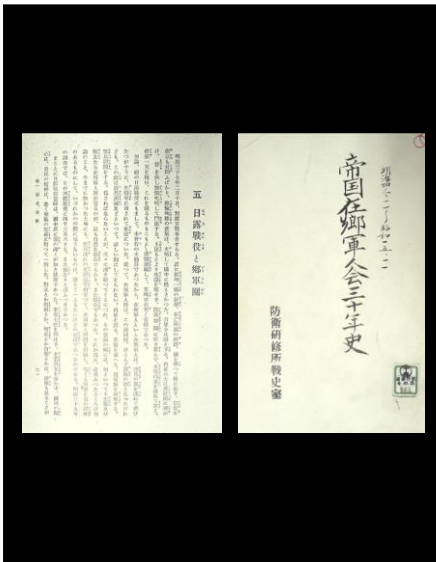
平成 29 年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎月一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 一戸 兵衛 1855～1931年 》  
—青森県出身の陸軍大将—



旅順攻圍軍参加日誌別綴 (登録番号：戦役-日露戦役-200)

一戸兵衛大将は、明治 7 年 10 月陸軍兵学寮に入舎、陸軍戸山学校を経て、明治 10 年 5 月少尉に任官します。明治 27 年 6 月歩兵第 11 連隊大隊長として日清戦争に、明治 37 年 6 月には第 9 師団の歩兵第 6 旅団長として日露戦争に出征します。第 9 師団は第 3 軍に属し、9 月 19 日開始の旅順要塞第 2 次総攻撃では、歩兵第 6 旅団は盤竜山東堡壘と東鶏冠山北堡壘の間にある P 堡壘を占領する武功を挙げます。この史料には、第 3 軍司令官乃木希典大将が全軍に布告した参謀総長電などが載っていて、「P 砲台奪還ノ際一戸少将自ラ散兵線ヲ指揮シ前進セリトノ勇武ナル動作ハ特ニ参内シテ之ヲ伏奏セリ」、「自今 P 砲台ヲ一戸堡壘ト命名ス」と記されています (明治 37 年 11 月 3 日付)。約 155 日にわたる旅順攻圍戦は、明治 38 年 1 月 1 日ロシア軍の降伏で終結します。



帝国在郷軍人会三十年史 (登録番号：中央-軍事行政その他-101)

歩兵第 6 旅団長から第 3 軍参謀長となった一戸は、日露戦争後は第 17 師団長、第 4 師団長、第 1 師団長を経て、軍事参議官や教育総監を務め、大正 9 年 6 月後備役に編入されます。現役を退いてからは、大正 5 年から 11 年まで学習院院長を務め、大正 13 年には明治神宮宮司に就任、大正 15 年からは帝国在郷軍人会会長を兼ねます。この史料には、一戸の会長就任について、「旅順攻圍に勇名を世界に轟かした名將軍を第三代の会長に迎え、また安藤・中野の両中將に新に畑中將を加え、陸海三副会長を揃えて、本会首脳部の陣容は精神強靱の趣を呈するに至った」と記されています。東郷平八郎元帥をして「全生涯ヲ通ジテ忠誠一貫其物デアッタ」と評された一戸は、昭和 6 年 9 月、76 年にわたるその生涯を閉じます (『一戸將軍』帝国在郷軍人会本部、1932 年)。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。

防衛研究所企画部企画調整課

専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)

外線：03-3260-3011

FAX：03-3260-3034

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp>